

◆大町ひじり学園だより◆

ひじりだけ



第 5 号

令和元年7月2日

大町町立小中一貫校

大町ひじり学園

(文責 尾崎 達也)

マリールイズさんは「ルワンダの大虐殺」(1994年 約100日間で80万人が殺害された)から子ども3人を連れ、難民キャンプに逃れました。その難民キャンプで偶然出会った日本人医師の通訳となり(以前海外青年協力隊の活動で福島で研修を受けられ日本語を勉強されていた。)

マリールイズさんとマニマーティンさんとの交流

福島に逃れる事ができた方です。3・11東北大震災も経験されています。福島では被災された方々の傍で無条件の愛で寄り添って多くの方々の心の支えとなっております。ルワンダは「ルワンダの奇跡」と言われるように、その後奇跡の復興をしておりますが、ルイズさんはあの悲劇をくり返さないために教育が必要であるという信念からルワンダに学校をつくる活動をされています。

キャリア教育の観点から交流会を行いました。3時間目に前期ブロック(1~4年)と交流をしました。4年生の司会の下、歓迎の言葉、YMCAのダンス披露、4年生の歌と合奏を披露しました。ルイズさんと一緒に来ていただいたマニマーティンさんはアフリカを代表する歌手でルワンダでは知らない人はいない方だそうです。マーティンさんは音楽家なので子どもたちの音楽による歓迎を特に喜ばれました。また新曲も披露していただきました。4時間目は中期ブロック(5~7年)と交流をしました。はじめにマーティンさんが日本人と協働で作詞作曲した歌と母親を思う歌をアカペラで歌って下さいました。その後ルイズさんのパワーポイントを使っての話でした。以下、ルイズさんの話で印象に残った言葉を紹介しします。

「出会いから総てが始まる。出会いで生まれ変わる。」

福島のホームステイ先での80才のおばあちゃんから優しくそして厳しく接してもらったことで日本語や日本文化について学べた。日本に戻れたのもその時福島で出会った方々が動いてくれたから。

「学んだことは生きている限り自分を助けてくれる。」

福島で学んだ日本語で日本人医師と出会い、日本にF A



裏面に続く。

Xを送ることができた。また福島で学んだドーナツ作り、洋裁の技術が難民キャンプでの生活費作りにつながった。

「日本は赤ちゃんが生まれる前から見守ってくれている。」

母子手帳のことを言われました。

「命は総てを持っている。命が一番大事。」

生きていれば何かができる。

「戦争は生きる希望を奪う。教室には夢がある。」

ルワンダで学校を作る作業を始めた頃、ルワンダの子どもに「将来何になりたい？」と尋ねたら「おばちゃん、何言っているの？いつ死ぬかもしれないのに。」と答えた子が一ヶ月、学校で勉強をすることで、同じ質問をしたら「先生になりたい。」と生き生きとして答えた。「学ぶということは限りない可能性を秘めている。」と言われました。「戦争や争いの連鎖を断ち切るには絶対教育しかない。」とも言われています。

「食べることから笑顔が生まれる。」

日本の給食を見て、給食制度も取り入れておられます。

「『許す』ことから新しい国が作れる。」

子どもの指摘で母親同士が部族間の虐殺を許し合えるようになってから男性を動かし、国を動かした。これがルワンダの奇跡につながっている。

中期ブロックとの交流後、ご家庭の協力を得て集まった「おてつだい募金」をルイズさんに手渡ししました。とても喜んでもらえました。ルイズさんと出会ったのは今から7年前のことです。今回佐賀のユニセフに呼ばれ講演をするので電話がありました。7年前に会った事を覚え、大事にされているルイズさんにまたまた学ばされました。「一期一会」出会いから総ては始まる。

スポーツアカデミーSAGA（国民スポーツ大会強化指定選手）

2023年佐賀県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の強化選手に選ばれた生徒です。

西村碧空9年：走り幅跳び 竹林琉稀亜8年：剣道 佐々木吾修8年：剣道

土井仁大8年：銃剣道 大竹心花8年：銃剣道

山口愛斗8年：ウエイトリフティング 山口悠純8年：ウエイトリフティング

今後の活躍を期待しています。

代かき

主任児童委員でもある吉村様のご協力で、今年も実習田として田んぼをお借りできています。その田んぼで代かきをしました。代かきの前に子どもたちが田んぼで遊びました。「だるまさんが転んだ」「泥投げ合戦」をして、思う存分泥と遊んでいました。こういう機会がないと泥と遊ぶ事はありません。その後、きれいにならし、代かきを終了しました。次は田植えです。吉村様、JAの皆様方、またお世話になります。

